



# 1月 給食だより

令和8年1月8日  
江戸川区立篠崎第五小学校  
校長 山田勇一郎

新年を迎え、気持ちも新たに3学期が始まりました。休み中に夜更かしや寝坊などをして、生活リズムが乱れてしまったお子様もいるのではないでしょうか？寒くて起きるのが辛い時期ですが、お休み前の生活リズムを思い出し、朝食を食べて元気に登校できるよう、お子様のサポートをしていただけますと幸いです。

本年も給食室では、より一層衛生面に細心の注意を払い、安全で美味しい、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような魅力ある給食を作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 1月の給食目標

## たのもの 食べ物のはたらきを考えましょう

みなさん、食事の時に「食べ物のはたらき」について考えたことはありますか？「食べること」は、私たちが成長したり、活動したり、健康を保つ上で欠かせない大切なことです。食べ物にはそれぞれ、含まれている栄養素や体内でのはたらきが違うため、いろいろなものを組み合わせて食べるようにしましょう！





1/24～1/30は  
「全国学校給食週間」です

# 日本の学校給食のあゆみ

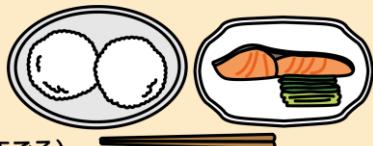


## 学校給食の始まり



明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大誓寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。

おにぎり  
焼き魚  
漬物  
(明治22年ごろ)



五色ごはん  
栄養みそ汁  
(大正12年ごろ)

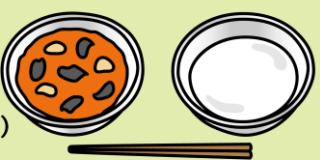


## 支援物資による学校給食の再開



戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク  
トマトシチュー  
(昭和22年ごろ)



コッペパン・ミルク  
クジラの竜田揚げ  
せん切りキャベツ  
(昭和25～30年ごろ)

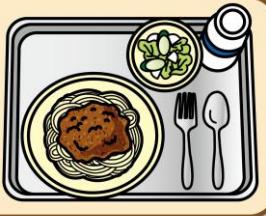


## バラエティー豊かな献立内容に



昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実してきました。

ミートスパゲッティ  
牛乳  
フレンチサラダ  
(昭和40～50年ごろ)



カレーライス  
牛乳・塩もみ  
ゆで卵  
(昭和51年ごろ)



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが食えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるよう、学校給食は「教材」としての役割も担っています。